

川柳マガジン東京句会 2月11日(日)

## 句評会

今月の集句 18 句は次の通り

- 1.反核は彼岸地球の年明ける 朔太郎
- 2.叶わない恋をポストが嘲笑う 倫也
- 3.盗人を捕らえてみればオードリー 団扇
- 4.ヨーイドン迄は出発点にいた 千枝子
- 5.くすり指あなたは嘘がうますぎる 帆波
- 6.千年も万年も生きてくはない 三十六
- 7.蛍雪の教えを嗤う文字離れ 淳隆
- 8.温室の中で結んだ甘い夢 哲夫
- 9.宣伝の効き目を知った閉店日 博重
- 10.その先の地図が描けない温暖化 利江
- 11.心の鬼追い払う大声の福は内 寿志子
- 12.ヒマラヤを臨んだ気持白い雲 くんじ
- 13.責任の無い椅子からのいい意見 きみ
- 14.有名なホラ有名なホラホラホラ 耕平
- 15.産む機会故障で代り借りに行く 竜雄
- 16.花道を説く御自分は飾らない まもる
- 17.職業に向いてる顔と向かぬ顔 宣子
- 18.鉛筆でなぞる古典にもう飽きた ゆう子

1は「まだ明けていない」のではないか、「年明けぬ」の方がしっくり来るといった意見があったが、作者が新年の新聞柳壇「明ける」に投稿した作品だと解説。

2は「身につまされる」「投稿と読んでも面白い」「下五の表現が強い、もう少し柔らかくても」「7の作品と対比してみると面白い」という意見が出た。作者は連句の一節、ラブレターを読んだものと解説。

3は「オードリーが判らない」「映画おしゃれ泥棒の事か」と疑問が出る。作者は「オシャレ」という題での没作品で、評価を聞いたかったと解説。

4は「入社式の情景を思い浮かべる」「赤ん坊が産まれた瞬間では」という意見が出た。作者は「人生の節目節目をスタートラインと捉えた作品」と解説。

5は「くすり指が誰を指すのか」「指切りの小指の隣のくすり指が知っている嘘」「女性の変心を表している」「紅を塗る指と見ると意味深である」「くすり指を擬人化したものでは」「くすり指で切れている句の構造と効果について聞きたい」という意見が出る。作者

は「基本的に不倫を読んだ作品」「切れは、くすり指のイメージを膨らませてもらうために意図したもの」と解説。

6は「ストレートで本音が読み取れる」「自然の摂理、輪廻転生を感じる」「死があって生を強く感じる」「長命ではなく長寿のパロディーでは」「万年や千年ではなく百年単位のほうが身近に感じられるのでは」という意見が出た。作者は「作句時の思いをストレートに評価していただいた」と解説。

7は「今を詠んでいる」「2と対極で面白い」という意見が出た。作者は「蛍雪時代などという冊子があった昔に比べての現代を表現したかった」と解説。

8は「温かい雰囲気である」という意見が出たが、作者欠席のため解説はなかった。

9は「売る側か買う側がどちらの視点だろう」「閉店セールを何度も繰り返す商店を思い出した」「売り手のほうからの視点ではないか」「意外な作り方で面白い」「商売に失敗した後悔の念を感じる」との意見が出た。作者は「初心者の閉店。店を閉めざるを得なくなった悔恨を表現したかった」と解説。

10は「地図の意味が不明」「実際の地図か、現象なのか」「今年の暖かさは不気味なので時事として面白い」「地図は世界の行く末だろう。共感できる」「エコロジー川柳と呼べる作品」という意見が出た。作者は「地球環境の変化の中で人類の未来地図という意味で地図という語を選んだ」と解説。

11は「2 1音という破調の必要性が解らない」「下五を上を持ってきて、(福は内心の鬼を追い払う)ではどうか」「(ついなえに心の鬼を追い払う)ではどうか」という意見が出たが、作者欠席のため、解説はなかった。

12は「スケールの大きさを感じる」「下五の前で切れているのはどういう効果を狙ったものか」「上五が動くのでは」という意見が出た。作者は「富士山を見たときに、ヒマラヤはもっと大きいだろう、あの雲くらいの高さだろうかという心象を詠んだ」と解説。

13は「会社勤めの経験があれば誰でもわかる作品」「むしろ責任のある立場からの視点では」「末席からの意見では」「しがらみのないいい意見がぱっと出てくる情景が浮かぶ」という意見が出た。作者は「実感句。会議が終わるといいアイデアが出る。どうして会議中にそれが出ないのかと不思議になる」と解説。

14は「面白い作品だが1 8音という破調が気になる」「有名なホラがなにか具体性が欲しい」「情景はわかるが下五に何か別な表現はなかったか」という意見が出た。作者は「川柳家が選者ではない新聞柳壇へ投稿した作品。言葉のリフレインと、会話の切り取りを表現として試みた作品」と解説。

15は「大臣の発言を逆手に表現した作品」「大臣が詠めば大変な事になるという意味で面白い」「代理出産のことではないか」「表現が冷たくて強すぎる」「愛人の事だろうか」「主語がない。私がなのか、そういう男性達なのか」という意見が出た。作者は「男の手前勝手な理屈を浮気相手がいるという設定で表現したかった」と解説。

16は「上五は花道のことなのか」「飾らない、か、飾れない、かどちらか比較してみたい」

「花道を飾る人は説かないのではないか」「主体が作者なのか、当事者なのか見えにくい」という意見が出た。作者は「引き際を説く人が、いざ自分のことになると、なかなか引き際を飾れないという、場面を表現した作品」と解説。その後「それならば(飾れない)より(飾らない)がしっくりくる」「御自分という表現に違和感がある」「上五は下五に繋がるといことが解ると、状況が読めてくる」という意見が出る。

17は「上五がもっと具体的で限定されていれば面白いかも」「職業が顔を作る、という言葉思い出す」「職業と限定して読まないで、妻や母にも向いている顔があると読んでみると面白い」「動きがない(あの人がまさかと思う職に付き)ではどうか」「総花的に読んでしまうより、たとえば(大臣に)という上五ならばどうか」「下五が面白い」という意見が出た。作者は「地位が人を作るというように、職業によって顔つきも変わるのではないか、しかしまた、意外性のある場合もある。そういうことを表現した」と解説。

18は「古典を読むより今の小説を読むほうがいいか」「書く、読む、古典だけでなく芸能にも通ずる気がする」「文学と芸術について考えさせられる」という意見が出た。作者は「奥の細道などの古典を、鉛筆でなぞる商品のブームを表現した」と解説。その後「そういった商品があることに直ぐに気が付かなかった」「ゲーム機でも同じ商品があるが、確かに(もう飽きた)という表現がしっくりくる」「一過性のブームというものをうまく捕らえている」という意見が出た。

今回は、実験的な作品をお寄せいただいた方が多く、議論が白熱した。今後は「解る解らない」の指針的なものを置いてみて、技術的な部分での句評を加えてみると面白いと思う。